

ふじのくに地球環境史ミュージアムを構成する、7つの要素。

【基本データ】

名称	ふじのくに地球環境史ミュージアム
住所	静岡市駿河区大谷5762
収蔵物	自然史資料（昆虫、植物、魚類、哺乳類他、岩石等）29万点
スタッフ(H26)	事務職員：4名、教員：2名 研究員2名
料金	検討中
今後のスケジュール	平成27年1月～平成28年2月 展示工事及び外構工事
	平成27年4月 ミュージアム開設（アウトリーチ等活動開始）
	平成27年夏休み 開館半年前イベント
	平成28年3月 開館

1 世界初！「地球環境史」のミュージアムです

全国で46番目に誕生する静岡の県立博物館「ふじのくに地球環境史ミュージアム」は、単なる自然系博物館ではなく、「地球環境史」をテーマに据え、人と自然の関係を問う博物館を目指します。

たとえば近い未来、2030年、人類が取り返しのつかない環境破壊と、自然災害に見舞われた時、あなたはどの立ち向かいますか？一緒に考えていきましょう。



自然は人に大いなる恵みと、災厄をもたらす

2 脱ハコモノ！既存高校校舎の活用

平成25年3月に駿河総合高校と合併し、空き校舎となった旧静岡南高校校舎を改修して、ふじのくに地球環境史ミュージアムは建築されました。新築に比べ非常に安価なコストで整備され、教室は展示室や研究室に、理科室は収蔵室など、学校当時の部屋の特徴を活かした新たな学び舎としてリニューアルされました。

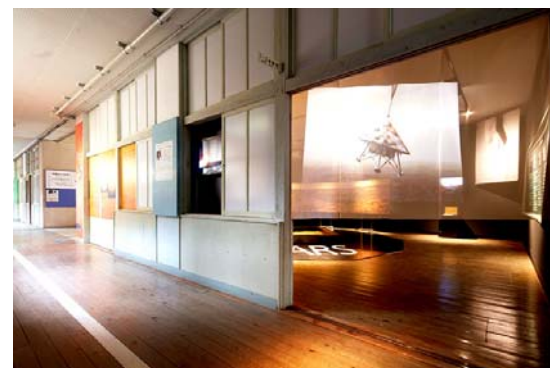


上：改修前 下：改修後



3 可変型展示・稼働型展示

ミュージアムの展示室は、その大部分が教室を改修した部屋です。一般的な博物館に比べ、展示室は小規模ながら部屋数は10部屋と多いため、頻繁な展示換えや、部屋毎に異なる展示テーマを提示していくことに適しています。また、展示室を丸ごと県内教育施設等に運び、教室をミュージアムの一室としてしまうミュージアムキャラバンを計画しているところです。



モバイルミュージアムの様子

4 研究者の顔が見えるミュージアムです

ミュージアムは、地球環境史における世界最高水準の調査研究機関となることを目指します。

博士号をもった6名の研究員を筆頭に、共同研究制度により国内外から集った研究者が一同に会するような、「知の拠点」化をはかります。

また、科研費指定機関となり、外部資金を獲得しながら、研究の成果を展示に反映させていきます。



国内外の研究者が集う場へ

5 NPO法人県自然史博物館ネットワークとの協同

彼らの存在を抜きにして、静岡のミュージアムを語ることはできません。

昆虫、植物、地学等、多部門に渡る自然史資料は、収集保管のあり方が分野ごと異なり、それぞれ高度な知識と技術が必要になります。NPO法人静岡県自然史博物館ネットワークには、大学や高校の（元）教員や、会社員でありながら玄人顔負けの方など、多くの専門家が在籍しており、11年間に渡り、県内の自然史資料を収集・保管してきました。



会員数300名を越える専門家集団

6 29万点の“ホンモノ”に出会える

本県の貴重な自然史資料が散逸してしまうことのないよう、県では平成15年度から現在に至るまで、NPO静岡県自然史博物館ネットワークとの連携により、資料の収集・保管を進めてきました。そして現在では、ミュージアムの開館前にも関わらず既に29万点の標本が収集されております。開館後は、あますことなくご来場の皆様に貴重な資料をご覧いただきたいです！



今日も標本の収集保管は進む

7 多様な機関との連携

ミュージアムが位置する有度山は、山頂には富士山の名勝地である日本平、そして徳川家康公を祀った久能山東照宮、その先には世界遺産富士山の構成資産である三保の松原があります。そして北麓の谷田には、県立美術館・県立大学・中央図書館。こうした近隣の文化・観光拠点との連携を深め、さらには隣接する静岡大学等との共同研究等で連携を深めていきます。

